

## 第 15 回宇宙開発利用専門調査会での論点と対応(案)

平成 16 年 1 月 16 日  
総合科学技術会議事務局

第 15 回宇宙開発利用専門調査会(安全の確保における人工衛星開発利用のあり方)における主な論点とその対応案を表 1 にまとめる。

表 1 主な論点と対応等

番号	主な論点	対応等
1	各省庁ばらばらの技術開発は多くの無駄を生じるので、開発のあり方を考えること。例えば、衛星通信設備・システム等を各省庁がそれぞれ整備しているが、共通化できないかを検討する。利用の観点及びデータの一元管理の観点からは、各省庁で蓄積するデータの形式、フォーマット等の統一が必要である。	利用の全分野における課題・留意事項として、今後の取りまとめに反映。
2	安全保障・危機管理の観点からどのような衛星(測位衛星を含む)が必要かを利用計画に結び付けた上で各省横断的に議論すべきである。	論点 1 とあわせて、今後の取りまとめに反映。
3	(狭義の)安全保障について、衛星利用のどのようなスタンスを取るか及びその効果について研究し、はっきりさせることが必要である。例えば以下のような検討が考えられる。 国際的な情報収集衛星 高解像度の民生衛星への投資	コメントとして、今後の取りまとめに反映。
4	安全保障・国民の財産と生命を守る目的を含めた宇宙利用は、デュアルユースという観点からの検討が必要であり、公共投資という観点からは以下のような検討が必要である。 長寿命化 継続性と継続的打上による衛星増 継続的な技術開発と成果の取込み	今後の専門調査会にて議論。
5	災害対策における衛星利用において時空間のデータ不足から実用利用が可能になっていない状況を考え、情報収集衛星のデータ利用について検討すべきである。	コメントとして、今後の取りまとめに反映。
6	安全の確保の観点における衛星の利用について、コストを含めた議論をすべきである。	本分野における課題・留意事項として、今後の取りまとめに反映。
7	技術安全保障の観点で技術の優先順位をつける必要がある。	今後の専門調査会にて議論。
8	地球観測衛星の利用において、科学的知見を活用した災害の予知・予測を行う必要があり、国際貢献のあり方としても議論が必要である。	本分野における課題・留意事項として、今後の取りまとめに反映。国際貢献のあり方については、今後の専門調査会で議論。